

天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画

(令和5年～令和14年)

概要版

湯川天人



天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画とは

◆ 計画策定の背景と目的

天ヶ瀬温泉は、別府や湯布院とともに豊後三大温泉に数えられ、豊後國風土記にも記録が残る歴史ある温泉地です。玖珠川沿いの山間狭隘地形にある天ヶ瀬温泉街は従前より頻繁に洪水が発生していますが、令和2年7月豪雨による洪水は特に規模が大きく、温泉街の大部分が浸水し甚大な被害が発生しました。

この災害からの復興を目指し、地域住民がまちの将来像を描いた「天ヶ瀬温泉街復興ビジョン」を策定しました。

また、大分県は今後の浸水被害を軽減するため玖珠川の河川改修事業に着手しました。

本市においては、復興ビジョンに描かれた将来像の実現に向け、課題整理や整備方針・まちのデザイン等をまとめ、災害に強いまちづくりと温泉街の活性化や賑わい創出を図ることを目的とした「天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画」を策定しました。

◆ 計画の対象区域

本計画の対象区域は玖珠川や国道210号を含む、天ヶ瀬温泉街全体とします。



令和2年7月豪雨

デザイン会議の開催

安全安心

- 地域防災力向上のための取組
- 災害伝承に関する取組

地域懇談会
住民意見の集約

観光・商業振興

- 地域経済の活性化に資する取組

社会実験
灯りの実証実験
川辺空間実証実験

公共デザイン

- 歩いて楽しいエリアに向けた公共空間の整備と利活用
- エリアの景観形成に向けた取組

関連した事業
玖珠川河川改修事業

夜間景観デザイン

- 安心・愛着・誘客に向けた夜間照明デザイン

天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画

具体的な事業（整備）計画

各種事業の実施

◆ 計画策定の体制

本計画の策定にあたっては、天ヶ瀬温泉街デザイン会議により計画案の検討を行い、地域懇談会にて意見を集約し、最終的に日田市として取りまとめました。

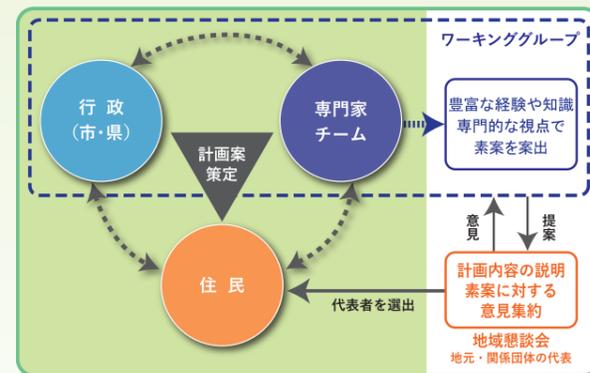
◇ 天ヶ瀬温泉街デザイン会議

- 行政（市、県）、専門家チーム、地域の代表者により組織されます。
- 計画書案の検討を行います。

◇ 地域懇談会

- 地域住民や関係団体により組織されます。
- デザイン会議で検討した計画案をもって地域懇談会を開催し、計画内容の説明、意見の集約を行います。

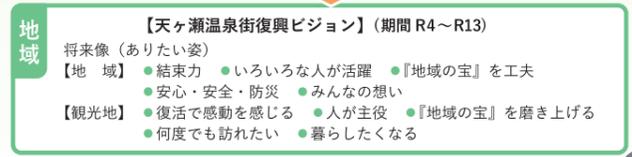
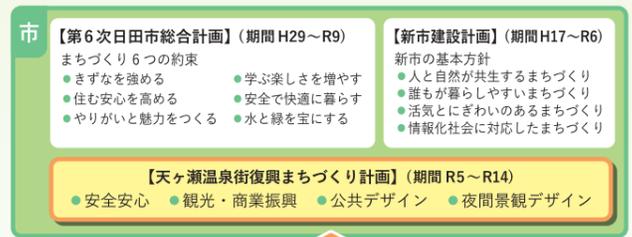
◆ 天ヶ瀬温泉街デザイン会議



◆ 計画の位置づけと役割

本計画は、復興に向けて取り組むべき内容を整理し、市の最上位計画である「第6次日田市総合計画」との整合性を図るとともに、地域住民によって策定された「天ヶ瀬温泉街復興ビジョン」に

描かれた将来像の実現に向けて、まちのデザイン等、具体的な取組を「天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画」に位置付けて推進します。



天ヶ瀬温泉街の現況と課題

◆ 被災状況の整理

令和2年7月6日～8日にかけて梅雨前線が九州付近に停滞し、記録的な大雨を降らせました。

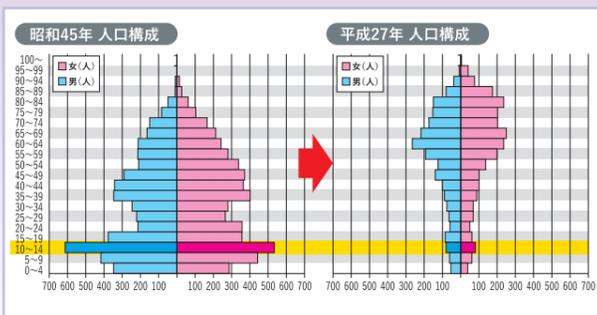
大分県西部を中心に8地点で24時間降水量が250ミリを超え、これまでの記録を更新する大雨となり、玖珠では24時間降水量310.0ミリを観測、日田市では24時間降水量272.0ミリ、椿ヶ鼻(日田市)では24時間降水量497.0ミリを観測しました。特に玖珠と椿ヶ鼻では観測史上1位の記録を更新しました。

また天瀬では7月7日に記録的短時間大雨情報が発表されました。



◆ 人口の推移

若年層は減少の一途にあり、平成27年(2015年)では10～14歳が男女とも100人を割る構成となっています。



天瀬町の人口ピラミッド(昭和45年～平成27年)

◆ 天瀬地区の観光入込客・宿泊客数の推移

入込客数が平成17年(2005年)の約228万人から直近で約72万人と大きく減少しています。

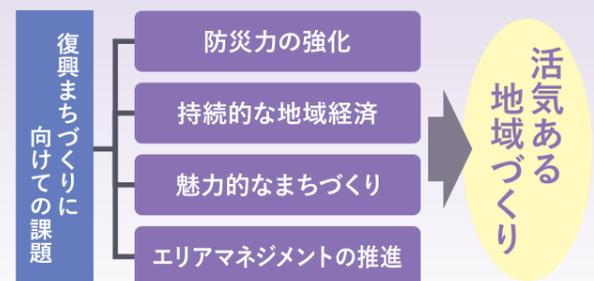


天瀬地区の観光客のグラフ(左軸:宿泊客数、右軸:入込客数)

◆ 復興まちづくりに向けての課題

天ヶ瀬温泉街では「防災・減災」、「定住・交流人口の増加」、「コミュニティの強化」など地域の活性化に取り組み、災害に強く魅力あふれるまちづくりを目指します。

そのため、まちづくりの課題を次のとおり整理します。



〈防災力の強化〉

- 防災・減災に対する自助・共助の取組
- 被災状況を伝承する取組

〈持続的な地域経済〉

- 商業振興
- 遊休不動産の有効利用
- 観光振興

〈魅力的なまちづくり〉

- 癒される河川景観の形成
- 歩きたくなるまちなみ景観の形成
- 夜間景観の形成

〈エリアマネジメントの推進〉

- 推進体制の構築
- 人材の確保や育成

天ヶ瀬温泉街復興まちづくりのコンセプト

天ヶ瀬アドベンチャー

『湯・川・山・天・人』

すべてが天ヶ瀬温泉街の魅力

自然に学び、人とふれあい、湯に癒される

自然の猛威に遭い、自然の怖さを再認識し、新しい温泉街へ

新しいまち旅の出発

自然と共生し、魅力あるまちづくりへの冒険

楽しんで、学んで、癒されて、多くの人のアドベンチャーフィールドへ

親しめる川、遊べる川、癒される川へ

楽しく歩ける街、癒される空間、夜も魅力的な景観へ

住んでいる方、訪れる方、事業者、起業家、すべての方に魅力的な天ヶ瀬温泉街となるべく

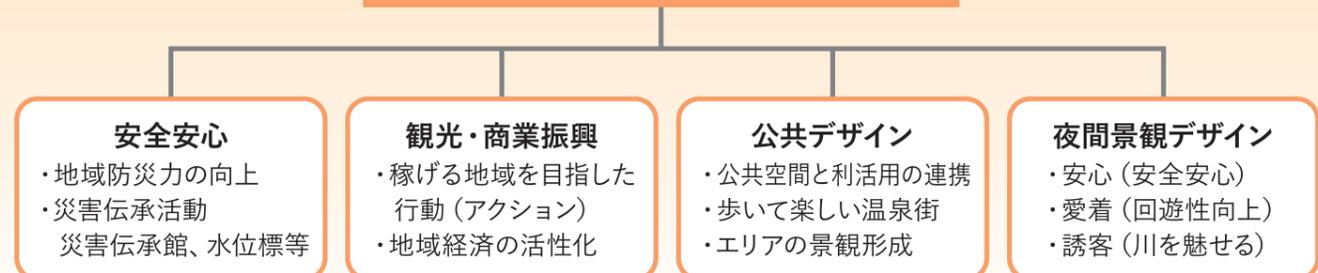
「天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画」を推進します

◆ 復興まちづくりの基本方針

温泉街が持つ誘客力や経済力を更に活性化させるよう、玖珠川に「歩いて楽しい川辺空間」や「美しい夜間景観」など親しみ・遊び・学び・癒しの空間を創出し、地域住民に愛され、観光客に感動を与え、温泉街に集う人々により賑わいが生まれ、活気あるまちの実現に向け、4つの柱を軸とした天ヶ瀬アドベンチャーを推進します。



天ヶ瀬アドベンチャー



天ヶ瀬温泉街の将来イメージ

豊かな自然環境に融合した景観が人々に癒しと感動をあたえ、川中では釣りやパドルスポーツ等のアクティビティ、川辺にはコンテナカフェやキッチンカーが建ち並び、散策する人々と一体となり賑やかな温泉街。

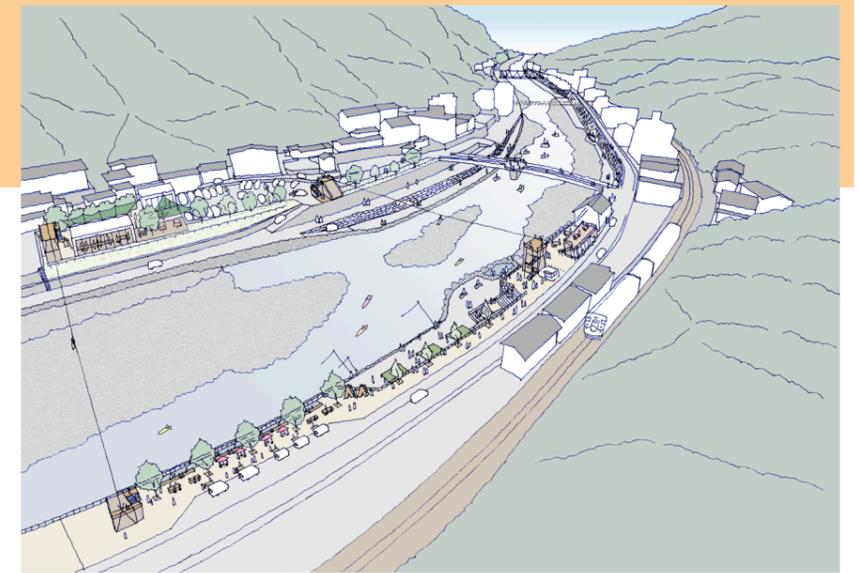
① 自然と融合したまちなみ



② 川辺の散策とアクティビティ



◆ 全体イメージ

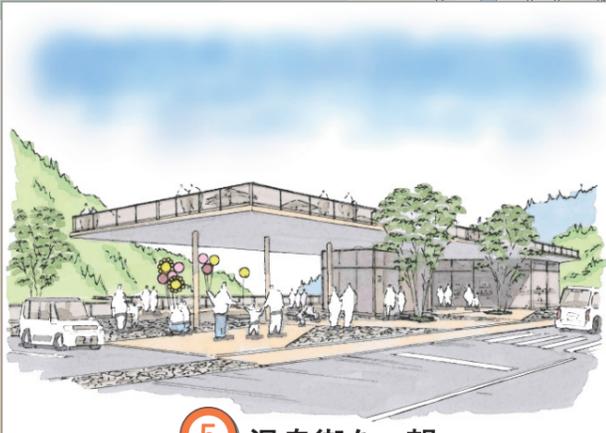


夜間景観イメージ

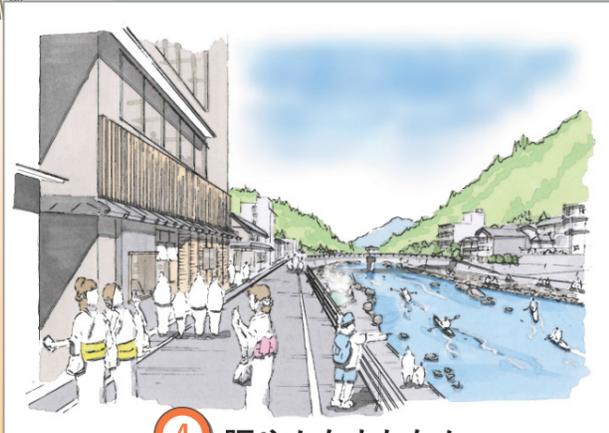
天ヶ瀬温泉街ならではの河川・川湯・橋梁等にあかりを灯し、オンリーワンの夜間景観を創出。まちなかを巡る楽しさ（アドベンチャー）に誘われ、そぞろ歩きを楽しむ人々が集い、夜もにぎわい溢れる温泉街。

次のページから、復興まちづくりのコンセプトである「天ヶ瀬アドベンチャー」を支える4つの柱、「安全安心」「観光・商業振興」「公共デザイン」「夜間景観デザイン」をそれぞれ掲載しています。

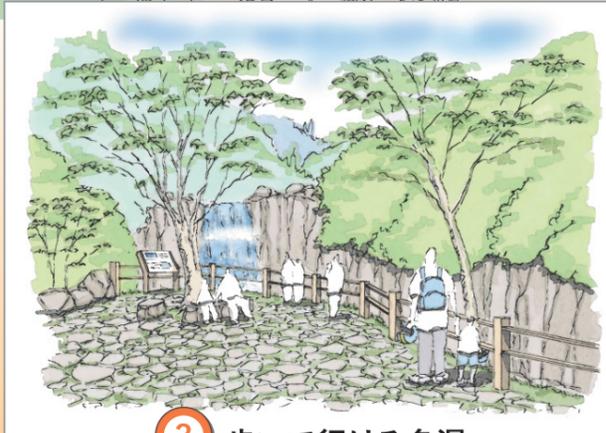
⑤ 温泉街を一望



④ 賑やかなまちなか



③ 歩いて行ける名瀑



天ヶ瀬アドベンチャー「4つの柱」分野別取組

安全安心

◆ 地域防災力向上のための取組

「自らの命は自らで守る、地域で共に助け合う」
“持続的な意識”と“実践活動”が地域社会にとって重要です。

- ① 実効性のある自主防災組織と実践活動
- ② 持続的な防災学習会（災害図上訓練）の開催
- ③ 避難訓練と自主防災組織による避難所運営



◆ 災害伝承に関する取組

玖珠川の河川改修は約10年の長期にわたる計画です。その間、まちを支える温泉観光や賑わいの復活とともに、自然との共生を図り“災害に強い復興まちづくり”を進める取組が必要です。

令和2年7月豪雨で被災状況と復興まちづくりや防災の取組を過去から未来へと継承する“災害伝承活動”を推進します。

- ① 災害伝承館と活動拠点の設置
- ② 被災水位標を設置
- ③ 災害からの教訓と復興への想いを語る人材育成



▲災害拠点利用、災害伝承活動イメージ写真

・地域防災力の向上
・災害伝承活動（災害伝承館、水位標等）

公共デザイン

・公共空間と利活用の連携
・歩いて楽しい温泉街
・エリアの景観形成

◆ 歩いて楽しいエリアに向けた公共空間の整備と利活用

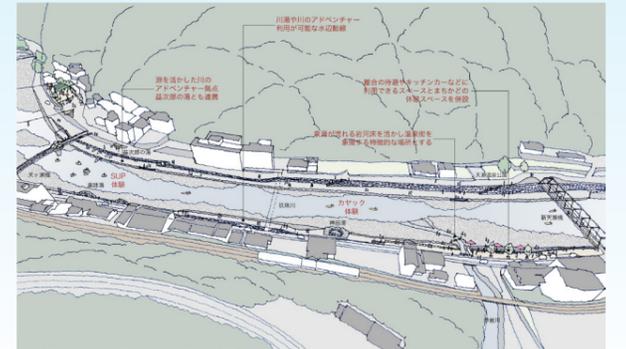
魅力ある温泉観光地の創出に向け、様々な体験を楽しめ、「湯・川・山・天・人」を体感できる公共空間と利活用の連携を目指します。

◆ 天ヶ瀬温泉街の公共空間と利活用

天ヶ瀬温泉街の魅力を高めるため「水辺」「まちなか」「回遊」の3つで整理し、既存の公共空間や復興まちづくりにおける整備と利活用を連携させることで“歩いて楽しい温泉街”を目指します。

◆ エリアの景観形成に向けた取組

エリアとしての魅力を持った天ヶ瀬温泉街を実現するためには、天ヶ瀬温泉街が今後取り組む景観形成の方針やその実現に向けて守るべき作法を、関係者で共有するための「天ヶ瀬温泉街景観形成ガイドライン（仮称）」が必要です。



▲公共空間の利活用イメージ図

観光・商業振興

・稼げる地域を目指す行動（アクション）
・地域経済の活性化

◆ 地域経済の活性化に資する取組

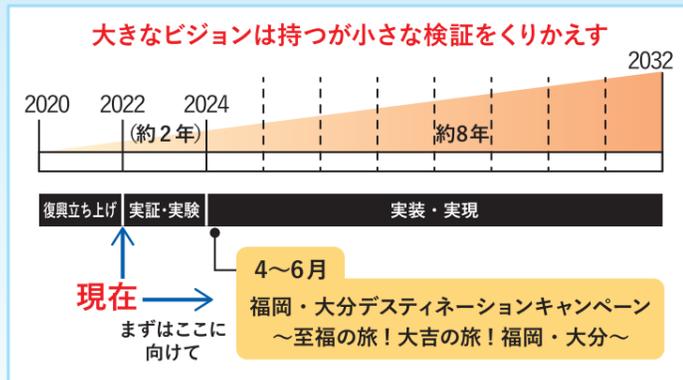
大きな資本に支えられた安定的な事業が理想ですが、約10年とされる復興事業の中では期待しすぎではいけません。小さいながらも、エリアの新しい価値をつくりだすチャレンジな取組、事業をまち全体で応援し、小さな成功体験を生むことが重要です。長期的ビジョン（10年）を見据えた上での短期的目標（1～3年）を達成していく成功体験は周囲に伝播し、次のチャレンジを生み出すこととなります。

◆ 稼げる地域を目指した行動（アクション）

- ・民主導であることを前提とする
- ・売れるものを見つけよう
- ・ローカルプレイヤーを輝かせる
- ・温泉観光地 / 温泉街の看板をいったん外そう

◆ 地域経済の活性化に必要な取組

- ① エリアのポテンシャル調査の実施
- ② リノベーションまちづくりの実践
- ③ エリマネ組織等の連携体制の構築
- ④ プレイヤー探し
- ⑤ 地域外との連携
- ⑥ チャレンジと応援の連鎖を具現化する「泊食分離」に向けた取組
- ⑦ アドベンチャーツーリズムの発想を取り入れる



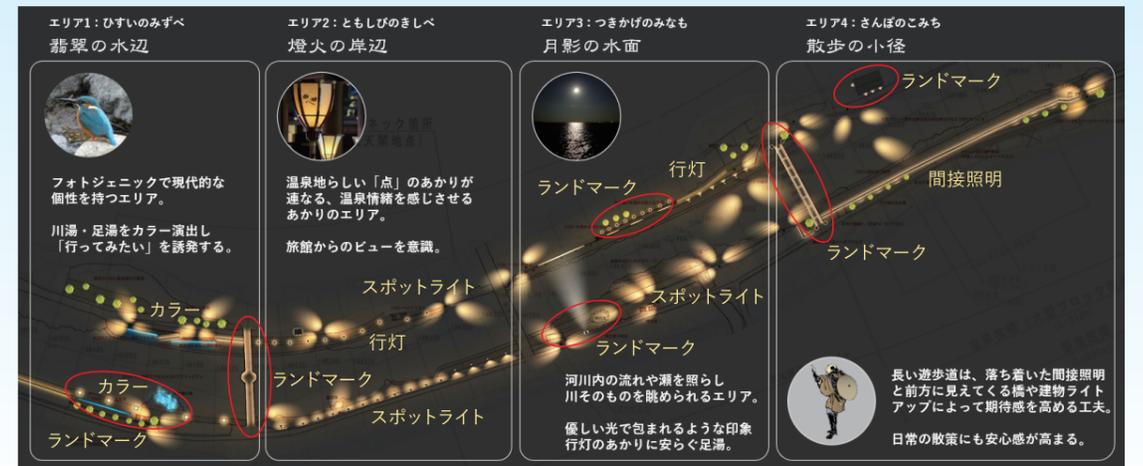
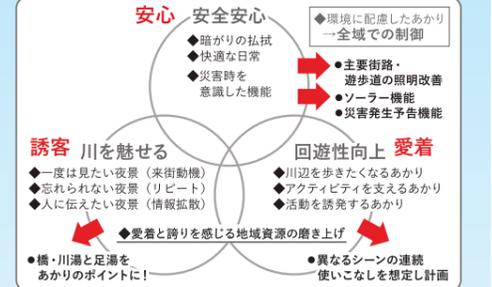
夜間景観デザイン

・安心（安全安心）
・愛着（回遊性向上）
・誘客（川を魅せる）

◆ 安心・愛着・誘客に向けた夜間照明デザイン

天ヶ瀬温泉街の魅力を高めるための将来像を「水辺」「まちなか」「周辺拠点」の3つで整理し、既存の公共空間照明更新と復興まちづくりにおける照明整備を連携させます。また、それぞれの領域において、夜間景観のコンセプトである「川を魅せる」「安全安心」「回遊性向上」を環境配慮のもと具現化し、新たなアイデアを取り入れ“天ヶ瀬アドベンチャー”を夜間にも体感できる温泉街を目指します。

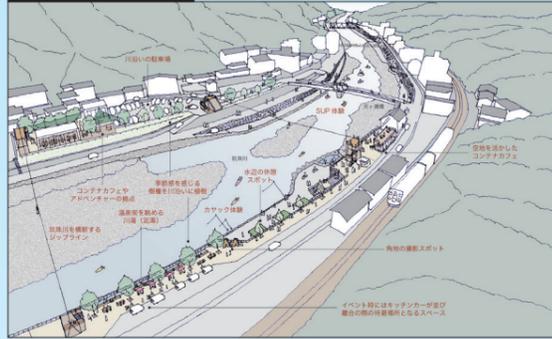
「天ヶ瀬温泉街復興まちづくり」夜間景観基本方針（案）



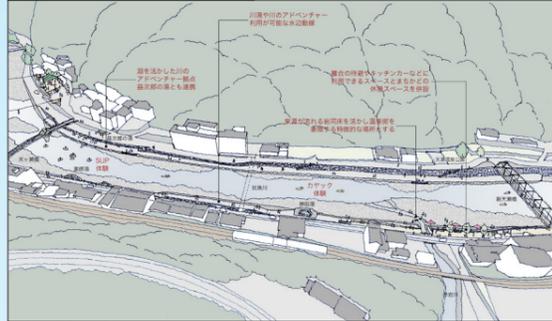
▲照明整備イメージ図

【参考】公共デザイン・夜間景観デザインイメージ

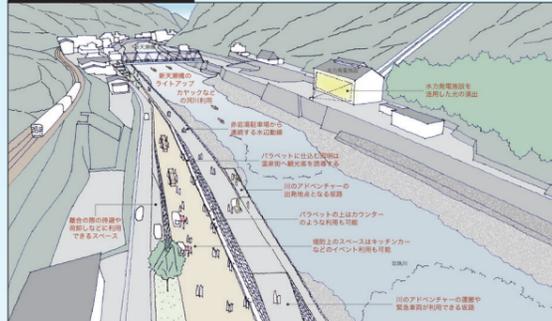
天ヶ瀬橋下流エリア



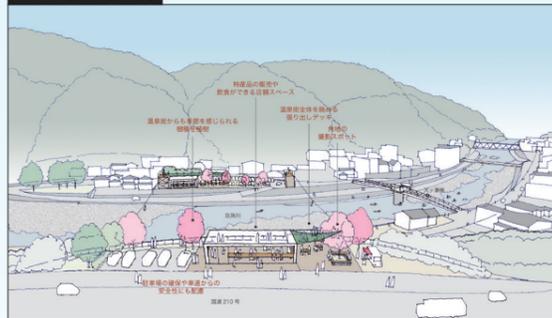
天ヶ瀬橋～新天ヶ瀬橋エリア



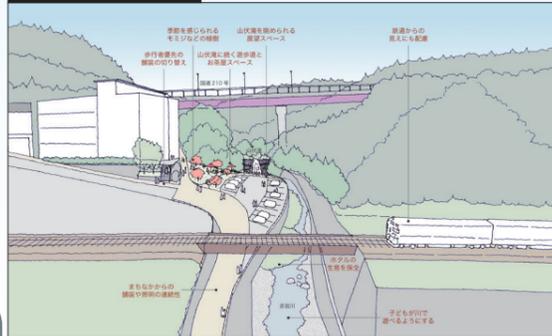
新天ヶ瀬橋上流エリア



空店舗の利活用



山伏滝周辺の利活用



翡翠の水辺



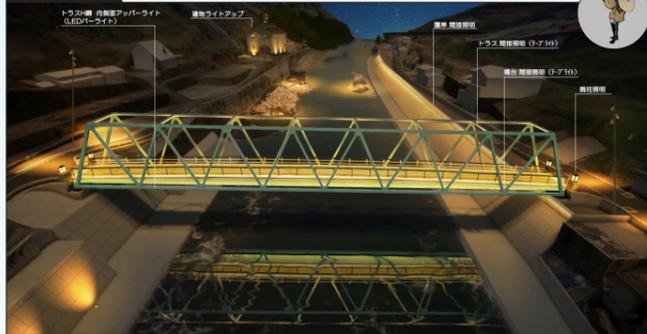
燈火の岸辺



月影の水面



散歩の小径

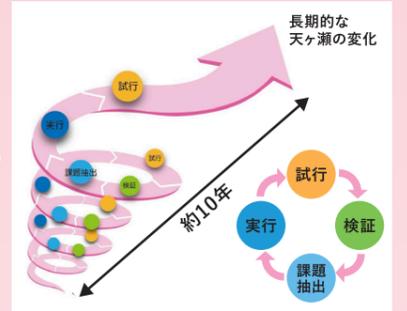


防災アラート照明



復興まちづくりの推進方策

計画を推進するにあたっては、行政と地域住民や事業者等の温泉街に関係する人が復興まちづくり計画に定められた将来ビジョンを共有し、長期的な視点で物事を考え、時代のニーズに合ったまちづくりを行います。



◆ 将来像の実現に向け『短期的アクションから長期的な変化を!』

社会実験等の試行的な取組を重ねることで、まちづくりに継続してチャレンジできる環境を整えることが重要となります。

『試行→検証→課題抽出→実行』をくり返して行うことで起きる小さな変化を積み重ねて長期的に大きな変化につなげます。

◆ 多様な関係者が連携『持続的なまちづくりの推進!』

まちづくりに携わる人が個々の取り組みをばらばらに行っているだけでは、大きな変化を生み出すことも継続的な活動も困難になります。取組の内容や実施時期などを関係者で共有し、地域住民や事業者等と行政が連携・協働したまちづくりを行い、継続的なまちづくりを推進していきます。

個々の活動→連携→力強いまちづくり・魅力的で選ばれる観光地を目指します。

◆ エリアマネジメント体制

上記で述べたようなまちづくりを推進するためには、温泉観光地としてまちを運営するという概念：エリアマネジメントが必要となります。多様な関係者が連携・協働してまちづくりに関わるエリアマネジメントの体制を構築し、企画立案から実施運用に至るまで様々な取組を一元化することで効率的で持続可能なまちづくりを推進します。

◆ 計画に基づく取組の推進

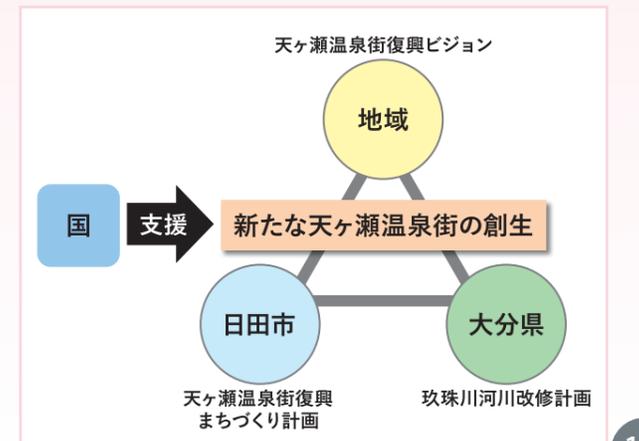
計画に沿って行われる各種事業や取組の推進については、「天ヶ瀬温泉街デザイン会議」において精査・調整・提言を行うとともに、復興の進捗状況や地域の状況、市の財政状況などを総合的に考慮し、必要に応じて取組内容の見直しを提案します。

◆ 国や県との連携

天ヶ瀬温泉街の復興を成すには、本市の取組だけでなく国や大分県と連携が必要です。

被災地に対する国の支援策や助言を受けて推進します。

温泉街の中心を流れる玖珠川の河川改修事業に取り組み大分県と連携を密にし、河川空間を活かした災害に強い魅力ある温泉街の形成に取り組みます。



令和5年3月策定
日田市

天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画【冊子版】

本計画の冊子版は Web でも公開しております。右記 QR コードの読み取り又は日田市 HP からご覧ください。

【天ヶ瀬温泉街復興まちづくり計画 URL】

<https://www.city.hita.oita.jp/soshiki/kikakushinko/amagaseshinko/amagaseonsen/14952.html>

